

滋賀県立陶芸の森のあり方検討について

1. 概要

滋賀県立陶芸の森(以下「陶芸の森」という。)については、平成 2 年の設立から 30 年以上が経過しており、長寿命化計画も踏まえながら、都度修繕を進めているものの、各施設の老朽化や収蔵スペースの不足などの課題があり、また、窯業技術試験場の隣接地への移転など、設立時からの状況の変化も生じているところである。

こうしたことから、「滋賀県立陶芸の森のあり方に関する懇話会」(以下「懇話会」という。)を設置し、令和 5 年度から令和 6 年度にかけて、有識者等の意見を聴取しながら、今後の方向性について検討をしていくこととする。

2. 現状の課題等

- ① 施設の老朽化
- ② 常設展示できるスペースがないなどの陶芸館の展示機能
- ③ 陶芸館の収蔵品の収蔵庫が手狭
- ④ 隣接移転した窯業技術試験場や地域との連携(産業振興、人材育成等)
- ⑤ つちっこプログラムやアーティストインレジデンス事業のあり方
- ⑥ THE シガパークと連携した公園機能の魅力化

3. 懇話会における議論内容(予定)

- ① 現有施設の活用を前提に次期指定管理期間(令和8年度～)における陶芸の森における事業の方向性
- ② 施設改修も含めた今後の陶芸の森のあり方

4. 今後のスケジュール(予定)

- ・令和 5 年 11 月 … 第 1 回懇話会
 - ・令和 5 年 3 月 … 第 2 回懇話会
 - ・令和 6 年度にも 3 回程度開催し、今後のあり方の方向性をまとめていく。
- ※ 適宜、厚生・産業常任委員会に報告

滋賀県立陶芸の森 概要

指定管理者	公益財団法人滋賀県陶芸の森 (期間:令和3.4.1~令和8.3.31)
設置年月日 所在地	平成2年6月2日 滋賀県甲賀市信楽町勅旨2188-7
設置目的	県民の陶芸に対する理解と親しみを深め、広く陶芸に関する交流の場とすることにより県の陶器産業の振興と文化の向上を図る
施設概要	<p>1. 敷地面積 393,917.02㎡</p> <p>2. 施設の構成と主な機能</p> <p>(1) 公園(多目的広場、野外展示場、遊歩道等)</p> <p>(2) 陶芸館-作品の収集、保存、展示の実施</p> <p>(3) 信楽産業展示館-ホールとしての活用(※市有施設)</p> <p>(4) 創作研修館-陶芸の森全体の管理、AIRの実施</p> <p>3. 主な事業内容</p> <p>(1) 県民に親しまれる施設運営に関する事業 陶芸作品の野外展示、イベントの開催・誘致等</p> <p>(2) 陶芸文化の向上と交流に資する事業 展覧会の開催、AIR事業、つちっこプログラム</p> <p>(3) 陶器産業の振興に関する事業 窯業技術試験場との連携、信楽産業展示館の活用等</p>



Special Exhibition

特別展



大衆にじかに
ぶつかる芸術を

Taro Okamoto

岡本太郎 アートの夢

Dreams of Art

～陶壁・陶板・21世紀のフィギュア造形



2023

Part I 7.15 sat — 9.24 sun

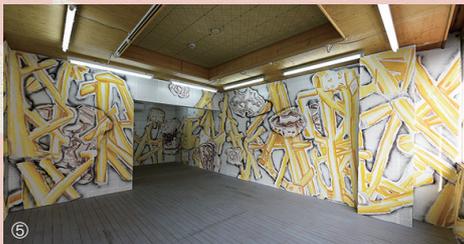
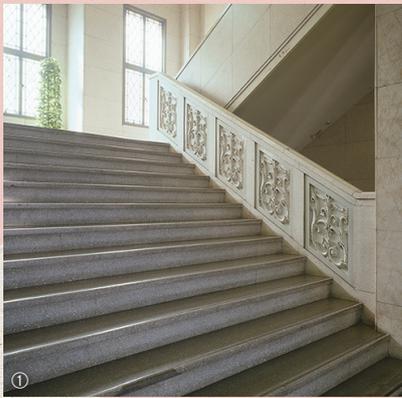
Part II 9.30 sat — 12.17 sun

開館時間/9時30分～17時(入館は16時30分まで)
休館日/毎週月曜日 ※7月17日・9月18日・10月9日(月・祝)は開館し翌日振替休館
入場料/一般700円(560円)、高大生530円(420円)、中学生以下無料
※()内は20人以上の団体料金

主催/滋賀県立陶芸の森
後援/滋賀県教育委員会 甲賀市 NHK天津放送局 京都新聞
協力/大塚オーミ陶業株式会社 滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場 京セラ株式会社
株式会社カブコン 株式会社ニトロプラス 株式会社グッドスマイルカンパニー 株式会社SUM ART
株式会社フレア 順不同
企画協力/GILL GILL(株式会社ディーブケース) ほっぺふき子

①岡本太郎 1954年 常滑での制作風景 写真提供/川崎市岡本太郎美術館
②大塚製業株式会社Hi-etaワー「躍動する生命」1983年(2000年改修)/原画:岡本太郎 制作:大塚オーミ陶業株式会社 撮影:杉本正
③岡本太郎「天の榎木鉢」1954年/滋賀県立陶芸の森陶芸館 ④塚田貴士「それいけ!レッサくん」2021年/個人蔵
⑤藤本圭紀「The Garden~Take your time~」2021年/個人蔵
⑥大山竜「大空のワリオレックス」2007年/GILL GILL 蔵 ©CAPCOM CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

滋賀県立 陶芸の森 陶芸館



Taro Okamoto
岡本太郎
アートの夢
 Dreams of Art
 ~陶壁・陶板・21世紀のフィギュア造形

大衆にじかに
ぶつかる芸術を

信楽との出会いからはじまる、
岡本太郎のアナザー・ストーリー

岡本太郎のやきものによるパブリックアートへの挑戦は、1952年に常滑で制作したモザイクタイルに始まります。翌年には国際デザインコミッティーでグッドデザイン選定に関わり、ピカソが(やきもの)制作をしていた南仏の工房を訪れています。こうした活動をとおして生活とモノの関係について思索を深め、《芸術の大衆化》を探り始めます。1954年に常滑で手掛けた「犬の植木鉢」は、そのイメージが形となった作品といえるでしょう。

そして1960年代以降、「坐ることを拒否する椅子」や大阪万国博覧会の太陽の塔「過去の顔(黒い太陽)」などの代表作を信楽で手掛けてきました。その思いは今日も、公共空間を飾る陶レリーフや美術陶板など、陶産地・信楽のモノづくりのなかに息づいています。

21世紀の今、さまざまなアートの息吹その先へ

岡本太郎が世を去り四半世紀、アートは私たちにより身近になりつつあります。海外からも注目されるフィギュア造形、岡本太郎作品を壁画家・川田知志が新解釈し、公共空間へ展開する壁画など、岡本太郎が思い描いた夢の先、21世紀アートの息吹を見つめます。

- ①滋賀県庁本館「アカンサス紋レリーフタイル」1939年／制作：鍋要合名会社・指導：滋賀県立窯業試験場 撮影：杉本賢正
- ②近江化学陶器株式会社／原型：岡本太郎「むすめ」1960年代中頃／個人蔵／撮影：江藤太亮
- ③竹内しんぜん「アフリカゾウ」2018年／個人蔵 ©2018 Shinzen Takeuchi
- ④九千房政光「大日如来胸像」2018-19年／個人蔵
- ⑤川田知志「ノーサイド」2017年当時／撮影：怡土鉄夫(※参考画像)
- ⑥真辺菜月[CREA MODE]「刀剣乱舞ONLINE 和泉守兼定」FAN ART ©2015 EXNOA LLC/NITRO PLUS
- ⑦株式会社陶光菴／原型：岡本太郎「坐ることを拒否する椅子」1990年頃／甲賀市蔵

関連企画

- (1) フィギュアの原型師(出品作家)らによる**ガチャガチャ企画**が実現！
人気の原型師たちのフィギュアのガレージキットがガチャガチャに！
- (2) **対話の森** 大山竜(原型師)×館長 松井利夫
日時:10月8日(日) 14:00~15:30
会場:信楽産業展示館信楽ホール
応募方法:電話・FAX・Emailで
- (3) **つちっこプログラム 子ども特別講座**
 - ① 7月29日(土) タヌキの花入れをつくろう! 講師:岡田 南央
 - ② 7月30日(日) X'マスランブシェードをつくろう! 講師:灘 さとみ
 - ③ 8月5日(土) 動物の宝物入れをつくろう! 講師:津守 愛香
 - ④ 8月6日(日) マイキャラクターをつくろう! 講師:橋 功一郎

*くわしくはHPをご覧ください
- (4) **ギャラリートーク** 8月20日(日)、10月15日(日)、11月19日(日)
13:30~〔申込不要・入場券要〕

次回展覧会

「リサ・ラーソン展 知られざる創造の世界〜クラシックな名作とともに〜」
2024年3月2日(土)~5月26日(日)

【序 章】近代建築と装飾陶器のはじまり

【シーン1】建築と現代アートの融合

【シーン2】岡本太郎が目指したアートの大衆化

【シーン3】21世紀のフィギュアの世界〜新しいアートの息吹〜原型師たち
石崎紗央里/植田明志/榎木ともひで/大島雅人/大山竜/九千房政光/さと/
竹内しんぜん/塚田貴士/藤本圭紀/真辺菜月[CREA MODE]/吉沢光正/ゆま

【シーン4】川田知志「太郎の色とカタチ×パブリック」

part2で展示(陶芸館ギャラリー)



- 公共交通機関
 - ・「JR草津駅」より草津線乗り換え「貴生川駅」下車、信楽高原線乗り換え「信楽駅」下車、徒歩20分(約75分)
 - ・信楽高原線「信楽駅」より甲賀市コミュニティバス「陶芸の森前」または「陶芸の森(陶芸館前)」下車(約5分)
- 自動車
 - ・新名神高速道路信楽IC.から約8分
 - ・駐車場(無料) 普通車約250台 大型バス約10台



〒529-1804 滋賀県甲賀市信楽町勅旨2188-7
 TEL:0748-83-0909/FAX:0748-83-1193
 Web: http://www.sccp.jp